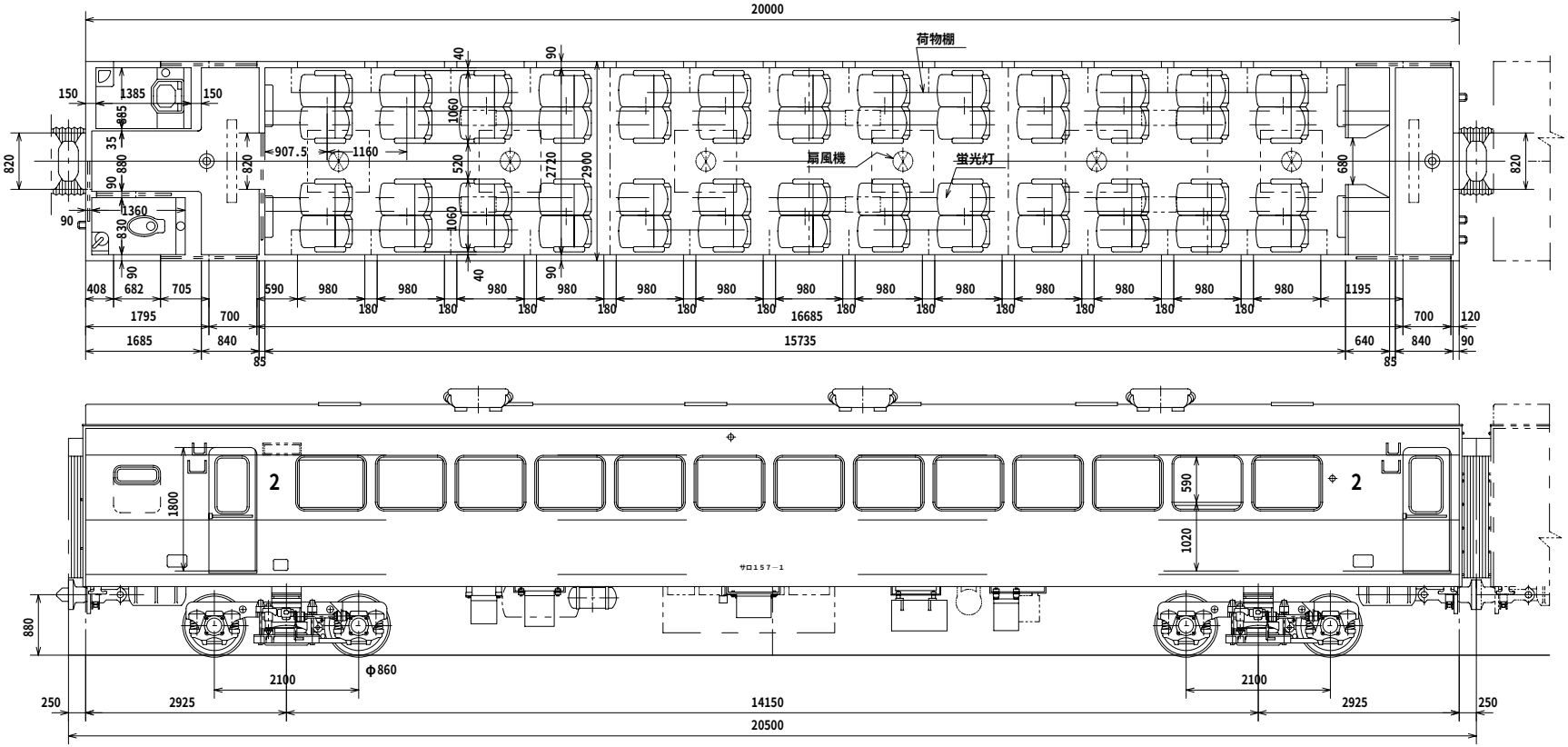
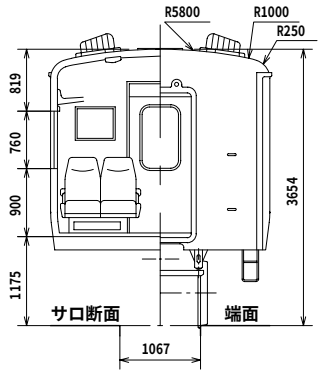
# 国鉄　サロ157型　形式図




1959年、日光行の準急用として製造された車輌
日光型と呼ばれ、独自のグループと成っている
大体こだま型と東海型の中間に相当し、前頭部のデザインが特徴
また機構的には勾配線を走るため、抑速ブレーキを採用している
台車は東海と同じくDT24とTR59
図示の3形式のほかサハ157があり、増備車を加えて合計31輌
図は製造当時のもので、左を宇都宮寄とした
塗色は赤とクリームであるが、赤はこだまのそれとは少しニュアンスの違うものを使っていた
日光準急のほか東海道線の特急ひびきとしても活躍
1963年には当初から予定していた冷房装置を取り付け、塗装もこだまと全く同色になった
ついでながら、クモハの運転室後方にある機械室は、冷房用大型MGのため設けられていたもの
また冷房化の際に、モハ156はパンタが2個となり、ユニットクーラー接地とあいまって屋上が一変
なお、同系の異色車として貴賓車クロ157(1輌)があり、お召し電車として使用されることがある